

Teacher Teacher

にちにち勉強会

第9回



プログラム構成

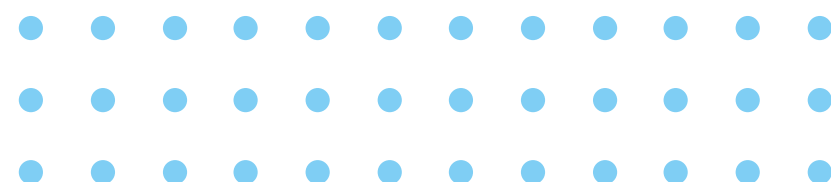
1. 行動分析学とは（1コマ）
2. レスポンドेंट行動（1コマ）
3. オペラント行動（2～4コマ）
4. 生活への応用ー応用行動分析学ー（2～3コマ）

※ 1コマ20～30分



Chapter 4 —(3)

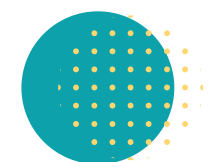
生活への応用 —応用行動分析学—



今日のテーマ

多すぎて困る行動へのアプローチ
～応用行動分析学で取り組むステップ～





応用行動分析学で解決できる問題

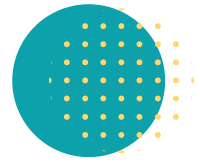
a. 少なすぎて困る行動

——増やしていくアプローチ

b. 多すぎて困る行動

——減らしていくアプローチ





3つのステップ

1 困難な状況を**具体的な行動**として記述して分析する。



2 **行動の目的**を推測する（仮説を立てる）。



3 介入方法を考えていく。

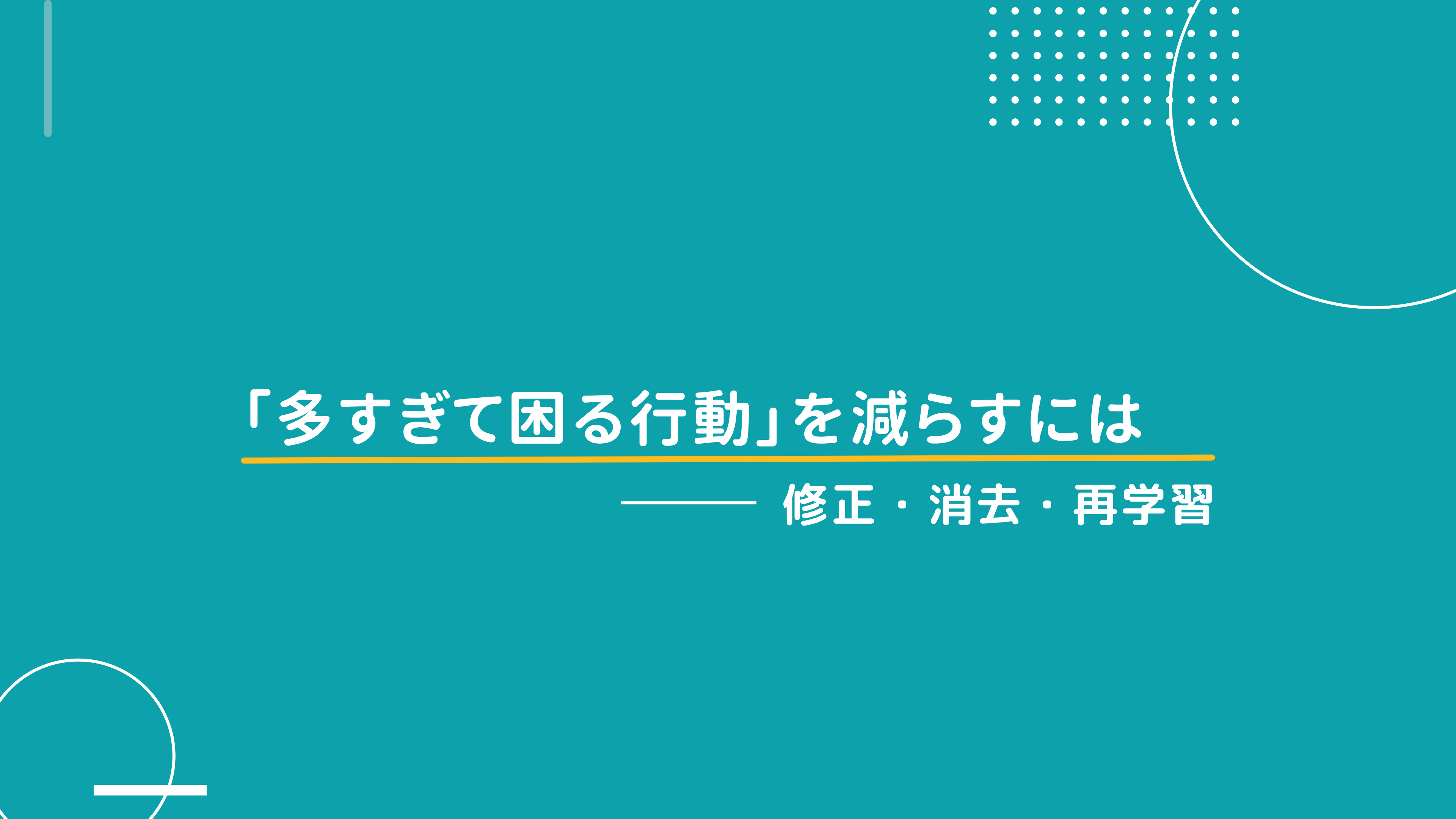
未学習・未定着の行動を形成していくための手順

ステップ1：目標行動を定義する

ステップ2：すぐ前の状況（A）を調整する

ステップ3：行動（B）を形成する

ステップ4：すぐ後の結果（C）を調整する

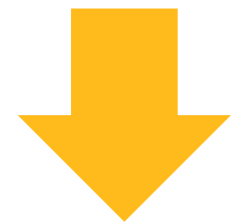


「多すぎて困る行動」を減らすには

—— 修正・消去・再学習

多すぎて困る行動

- 「〇〇しすぎて困る」
- 「〇〇しないでほしい」



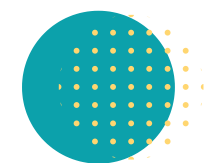
行動の誤学習、望ましい行動の未学習・未定着の可能性あり。
よくない行動が強化され、望ましい行動が強化されていないかも。

多すぎて困る行動へのアプローチ

<ポイント>

その行動を止めさせたり、減らそうと考えるのではなく
その行動に**変わる行動（代替行動）**は何なのか
その状況で**望まれる行動（適切行動）**は何なのか

代替行動や、適切行動を**強化**していく



多すぎて困る行動を減らしていく手順

ステップ1：その行動が生じる理由を知る（機能分析）

ステップ2：予防策を取る&すぐ前の状況を整える

ステップ3：行動を分化強化する

ステップ4：新たな学習をしていく（消去など）

ステップ1：その行動が生じる理由を知る

多すぎて困る行動場面を観察する。

< 観察のポイント >

- 行動の目的（機能）はなんだろう？
- 行動の前と後で状況はどう変化しただろうか？
- 行動を強化しているものはなんだろう？
- 状況がひどくない時はどんな時？
- うまく行く時はどんな場合？
- 行動のきっかけはあるだろうか？

ABC分析で行動の前後を見てみよう



その行動をした結果、どんな環境の変化が起こっているだろうか？

ステップ2：予防策を取る&すぐ前の状況を整える

問題行動が起こりにくいように環境を調整する。

問題行動が起こりやすくなるきっかけを減らす。

＋適切な行動や望ましい行動が起きやすくなる仕掛けを作る

普段は意識しない先行事象を意図的に操作して、望ましい行動を起こしやすくなる環境と作る。

どうすれば適切な行動を引き出せる？



環境調整

望ましい行動が発生するように環境を調整する

- 物理的な環境調整

机の位置、課題を行う場所の設計など

- 人的な環境調整（関わり）

スケジュールの伝え方、活動の量や手順を示す

事前契約（予告する）

望ましい行動を教える場面設定

※いつ、どんな時に、誰が、どんな方法で伝えるか

< 契約内容を決める時のポイント >

- 具体的であること
- 行動の結末を共有する
- イレギュラー対応を考えておく
- 可視化する

プロンプトの活用

プロンプトとは

どのような手助けによって起こりやすくなるか。
望ましい行動を引き出すための刺激（ヒント）



ステップ3：行動を分化強化する

分化強化とは

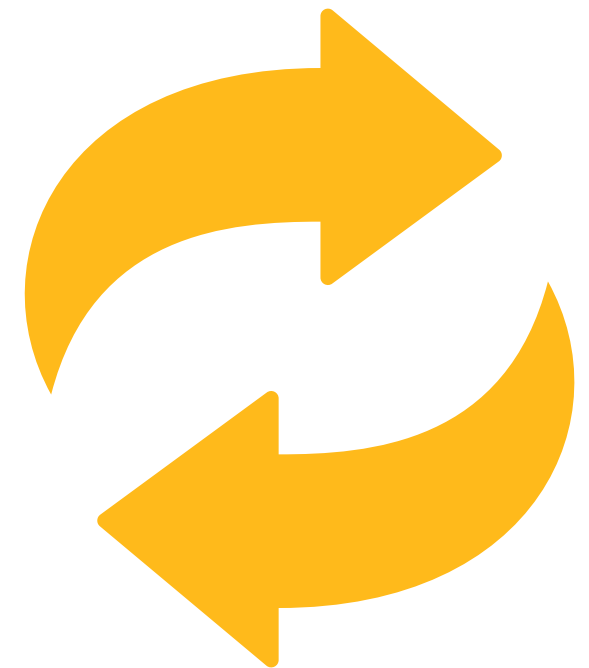
問題行動を強化せずに、それ以外の行動を強化していくこと

< 主な分化強化 >

1. 代替行動の分化強化
2. 適切行動の分化強化
3. 他行動の分化強化
4. 対立行動の分化強化

1. 代替行動の分化強化

問題行動と同じ機能（目的）を持つ代替行動を強化する方法。



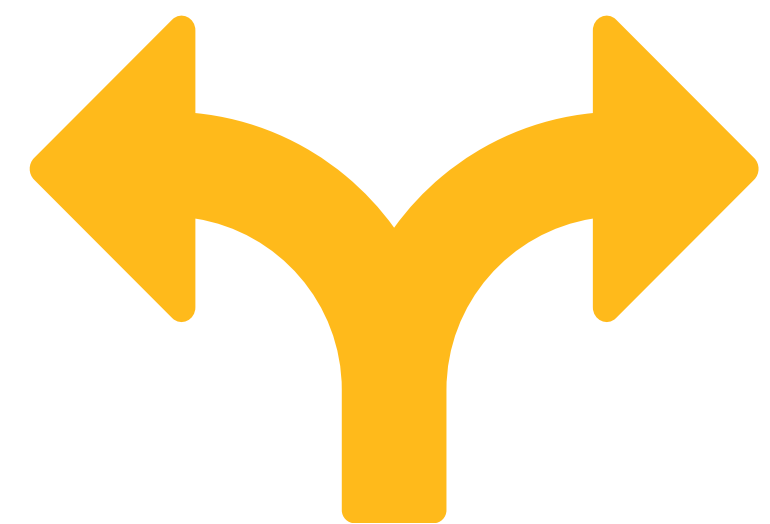
2. 適切行動の分化強化

問題行動が起こっていた場面で、その行動とは異なる社会的に適切な行動を強化していく方法。



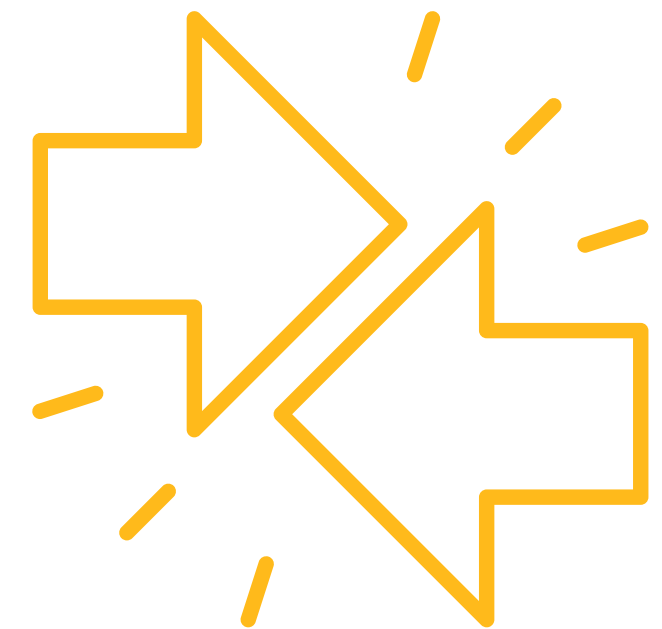
3. 他行動の分化強化

問題行動以外のすべての行動を強化することで、問題行動を減らしていく方法。



3. 対立行動の分化強化

問題行動とは同時に行えない対立する行動を強化し、増やしていくことで結果的に問題行動を減らす方法



どんな褒め方が喜ぶだろう？



できた時のほめ方の工夫（好子を探る）

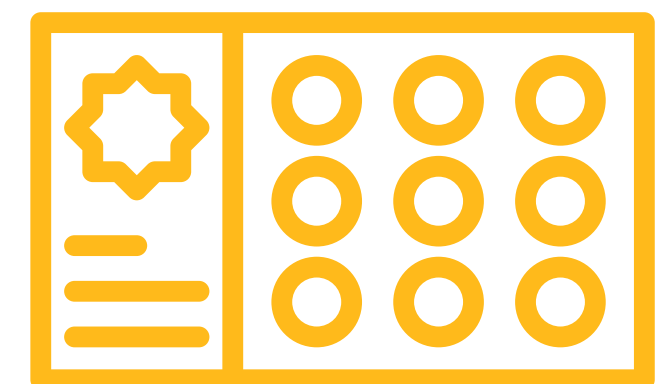
- お子さんが好むかかわり
- （大人の表情、身振り、身体接触、「ほめる」など）
- お子さんが好む活動、イベント
- お子さんが好む物、食べ物など

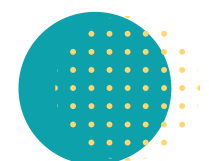


強化する時の留意点

1. ターゲット行動の直後に与える（60秒ルール）
2. その場で具体的に与える
3. 適切な分量を与える
4. 望ましい行動を行う困難度、労力に見合った好子を用いる
5. 好子は多数（多種類）用意しておき、バリエーションをつける
6. 行動が安定してできるまで好子を与え続ける
7. 子どもの行動が変化しているかどうか確認する

トークンエコノミー法の活用





トークンエコノミー法

増やしたいターゲット行動が生じた時に、
あらかじめ決めておいた量のトークン（代替好子）を呈示し
一定量貯まった時に、何らかの好子（バックアップ好子）と
交換する

トークン表を作るときのポイント

1. 本人と一緒にすること
2. 作る時点で本人が楽しめるように工夫すること
3. 手に取りやすい、見えやすい場所に掲示すること
4. 見るだけでワクワクできるものにすること



トークン表設定のポイント

1. 親も本人も納得できるポイント設定にすること
2. モチベーションが保てるポイント数にする
3. 喜びや欲しいものなどが本人のモチベーションになるものであること
4. 本人がやりたいと思える内容から始めること



問題行動が起こった時は・・・？

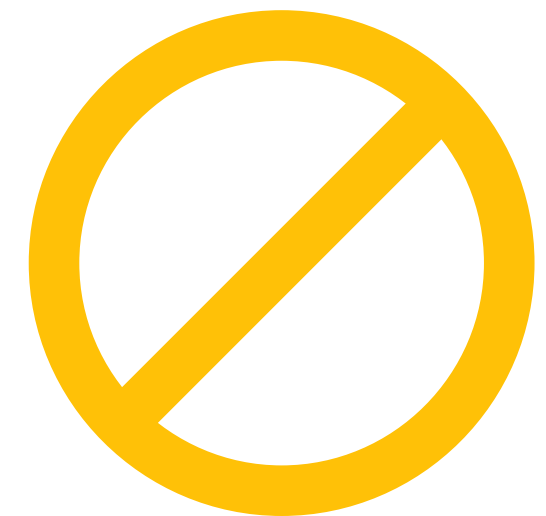


問題行動には弱化ではなく消去手続きを！

問題行動が起こった時は**嫌子出現による弱化**（罰や叱責）ではなく

「その行動をしても本人の望む結果が起こらない」=**好子なし**

という手続きをすることで、その行動は自然と行わなくなる。=**消去手続き**



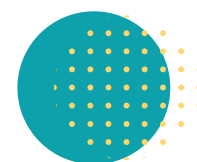
消去

●消去とは

行動の前後で環境や状況に何も変化がないことによって、その行動がやがて減ったり、弱まったりすること。



 前後で変化なし



消去誘発性行動変容

強化されていた行動が消去される時に、強化されていた行動とは違った行動が一時的に生じること。

●反応バースト

強化されていた行動が消去されると、一時的にその行動の強さや頻度が増えること。

●消去誘発性攻撃行動

行動が消去されるとき、その近くに何かがあれば、それに対する攻撃行動が生じること。

課題からの逃避行動への対処法

その行動に環境を変える効果を持たせない

逃避行動をしても課題が消えず、取り組むことでしか課題が消えないという対応によって消去。

※ただし、本人にとって課題の量や内容が適切かどうかを事前に設計しておくことが大事。

自己刺激行動への対処法

どのような状況で自己刺激行動が起こりやすいかを観察

暇な時→忙しくさせる

指示が分からなくて困っている→わかりやすい指示を出す

※どの場所ならやっても良いかを一緒に取り決めて、強化することもある。

まとめ

1

多すぎて困る行動は、行動の**誤学習**、望ましい行動の**未学習・未定着**と考える。

2

よくない行動**ではない**行動を強化することで問題行動を減らしていく。

3

よくない行動を叱ってやめさせるのではなく**目的が得られないという結果を作ることが大事**（消去手続き）

プログラム構成

1. 行動分析学とは（1コマ）
2. レスポンドेंट行動（1コマ）
3. オペラント行動（2～4コマ）
4. 生活への応用ー応用行動分析学ー（2～3コマ）

※ 1コマ20～30分

お疲れ様でした

Teacher Teacher
にちにち勉強会